



東北電友会会報

84号

平成31年
1月発行

てんてん

シリーズよみがえるあのころ
電話がみえる心の風景

「ダイヤル式電話機」



～目次～

ごあいさつ

- P01 NTT 東日本 取締役宮城事業部長
- P02 支部長メッセージ 宮城支部長
- P03 NTT グループ東北だより
- P04 震災コーナー
- P07 賛助会員企業様コーナー
- P10 東北地方本部だより
- P12 各地区電友会だより
- P72 会員リレーコーナー
- P77 会友コーナー 文芸・随想
- P87 てんでんみちのく川柳コーナー
- P88 NTT 東日本から退職者の皆さまへ
- P89 編集後記



日本電信電話公社

発行／電友会東北地方本部

電友会東北

検索

ごあいさつ

東日本電信電話株式会社 取締役 宮城事業部長
宮城事業部 宮城支店長
東北復興推進室長

中 村 浩

(NTT東日本一東北 代表取締役社長)



新年あけましておめでとうございます。謹んで新春のお慶びを申し上げます。

東北電友会の皆様には、日頃よりNTT東日本グループの事業に対し、格別のご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

情報通信は、AI・ビッグデータ・IoTなどの新技術を活用し、生活の利便性向上や地方創生、各産業における効率性向上等へ貢献することを期待されています。NTT東北グループにおいても、人口減少や少子高齢化による人手不足、企業におけるIT人材の不足など、東北地域が抱える課題の解決に貢献するべく、「東北はICTを欲しがっている」「お客様さまの更なるご要望を聞きだそう！」「IoT等」をスローガンに、IoT等の技術を活用した取り組みを行ってまいりました。

一例として、昨年10月には、機器メーカーおよび宮城県県の酒造会社と協力し、日本酒製造工程にセンサー等のIoT機器を導入することにより、製造の効率化および品質向上、技術伝承の簡易化を目的とした実証実験を開始いたしました。環境構築や実験で得られたデータをもとに、同様の課題を抱える酒造会社はもとより、他業種への応用・展開等についても検討を進めてまいりたいと考えております。

一方、自らの業務効率化を進めていく観点からも、ITC技術を利用した設備運用の効率化やRPA（パソコンの中にあるソフトウェア型のロボットによる業務自動化）の活用などのデジタル化施策を推進しているところです。

また、昨年は大阪府北部地震、北海道胆振東部地震、各地で相次いだ台風被害など、災害が非常に多い年でした。NTT東北グループにおいては、技術者や移動電源車等の資材を被災地に派遣するなど、グループを挙げて様々な支援を行いました。東日本大震災の経験をこれからもしっかりと継承し、災害時にも強いネットワークを構築するなど、いつでも、どこでも、だれとでもつながる安心と信頼を提供しつづけてまいります。

本年も、「地域とともに歩むICTソリューション企業」として、全社員一丸となって取り組んで参りますので、今後のNTT東日本グループの取り組みに、多くのご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

また、皆様から物心両面でご支援いただいている「東北マックス」ですが、ベースボールクラブは2年連続クラブ野球選手権大会本戦に出場、1回戦を突破し2回戦で敗れはしたものの好ゲームを見せてくれました。バドミントンチームは昨年昇格したS/Jリーグに初チャレンジです。1年間励んできた力を存分に発揮し、現在戦っているところでございます。来シーズンも両チームとも皆様に良いご報告ができますよう頑張つてまいりますので引き続きのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、東北電友会の益々のご発展、東北電友会の皆様のご健康・ご多幸を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

◎支部長メッセージ



宮城支部長

奥野 洋一

「汝、何のためにそこに在りや」

それにしても、昨年の自然災害の多さには驚きます。

年明け以降、日本海側を中心に大雪に見舞われたほか、全国的にも低温傾向となり、車の立ち往生等、生活に多大の被害が発生しました。山形県肘折温泉では44.5センチと観測史上最高の積雪を記録しました。

暑さも半端ではありませんでした。埼玉県熊谷市では7月に41度1分の日本歴代最高気温となったほか、全国各地で猛烈な暑さとなりました。

台風による被害も甚大でした。8月から9月にかけて、感覚的にはほぼ毎週台風がやって来ていたようでした。特に7月の台風7号と関連して起こったいわゆる「西日本豪雨」では、西日本を中心に全国各地で被害が発生しました。死者は200人を超えたほか、家屋の全半壊も2万棟以上となりました。電友会会員にも被害に遭われた方がおり、電友会本部から災害見舞金を贈ることになっています。

地震も島根、大阪で発生しました。9月には北海道胆振地方で震度7の地震が発生し、北海道全体で大きな被害が出ました。

このような、昨年も含めてここ数年、国内で起きた自然災害には大きな特徴があるように思います。

それは個々の災害が激烈になってきていることです。台風の時の風速も、日本本土では40メートルというのはなかなかなかったように思います。今は40メートル以上、中には50メートル超というものもあります。雨量も然りです。

暑さも40度以上という気温が簡単に全国各地で記録されていますが、私が子供の頃では考えられない気温です。

地球温暖化が原因かどうかはわかりませんが、これからの傾向は続くし、更に激しくなっていくように思います。

我々の生活に関連付けて言えば、どんな災害が、いつどこで起こっても不思議ではないということ、いつも頭の片隅に置いておかなければならない世の中になってきている、ということではないでしょうか。

ところで、私の高校時代の校長は、鈴木健次郎という人でした。普段は物静かな人でしたが、情熱の人でもありました。その先生の

言葉の中で忘れられない言葉が、冒頭に述べた「汝、何のためにそこに在りや」です。いつ、誰に聞かれてもはつきり断言できる自覚した日々の生活を送れということだと思いますが、非常に新鮮に聞こえました。

以後、必ずしもこの言葉を常に意識して生活してきた訳ではありませんが、いよいよ、人生の終盤に差し掛かってきて、かつ前に述べたように、自然災害の脅威が、ますます高まってきている時代に生きていかなければいけない、ということを考え合わせると、もう1度この言葉をインプットし直さなければいけないと、この頃思っています。

この話には余談があります。東京で勤務している時、何かの機会にこの「汝、何のためにそこに在りや」を社内で紹介したところ、1人の社員が、この言葉を知っていると云ってききました。事情を尋ねてみると、鈴木先生のお孫さんと結婚し、この言葉についても岳父（先生の息子さん）から聞いていたとのことでした。不思議な繋がりを感じました。



◆NTTグループ東北だより

◎スポーツクラブ後援会情報

日頃よりNTTグループ東北スポーツクラブ後援会の活動にご理解とご協力を頂き、「東北マックス（ベースボール・バドミントン）」に対し物心両面でのご支援、ならびにご声援を賜り、誠にありがとうございます。

東北マックスの選手たちは、NTTグループ各社をはじめ、さまざまな企業に所属しており、各自の時間をやりくりしつつ、皆様のご期待に応えるべく、鍛錬を重ねています。

各クラブの今シーズンのこれまでの主な成績については、ベースボールクラブは都市対抗野球大会（東京ドーム）では企業チームの壁が厚く一次予選大会で敗退。

クラブ野球選手権大会については東北大会で準優勝し、2年連続9度目の本大会出場を果たしました。

本大会（西武メットライフドーム）では、初戦で「NOMOベースボールクラブ（西近畿地区代表）」と対戦



得点に沸く応援団

し3対2で勝利。2回戦で「全足利クラブ（関東地区代表）」と対戦し0対2で敗戦となり、ベスト8の成績となりました。来シーズンでの全国優勝を目指し頑張つてまいります。

バドミントンチームは、今年度より国内最高峰のS/Jリーグ（旧一部リーグ）に復帰しての戦いとなります。

リーグ戦は12月8日に開幕となり、東北マックスは男子Jブロックリーグの上位進出を目指し頑張つていきます。東北地域での開催は12月22日「仙台大会」、2月3日「盛岡大会」が予定されておりますので、引き続き皆様の温かいご支援ならびにご声援を賜りますようお願いいたします。

（スポーツクラブ後援会事務局長）

◎社会貢献活動紹介

NTT東日本宮城グループは、被災地の復興に向けた海岸防災林の再生を目的に、東松島市で2015年に矢本地区、2016年に浜市地区でクロマツを植樹し、元気に大きく育つように雑草などの下草刈りに5ヶ年計画



S/J リーグ昇格認定式

で取り組んでいます。

3年目・2年目を迎えた今年度は、電友会・NTT東日本宮城グループの社員と家族総勢74名がそれぞれの地区に分かれクロマツを覆い尽くすほどに育った雑草や広く根を張ったクズの刈り取りを行い、予定していた時間内に作業は終了しました。電友会の皆様ご協力ありがとうございました。

NTT東日本宮城グループは、これからも社会貢献活動を行ってまいりますので引き続きご協力をよろしくお願いいたします。



浜市地区



参加者全員で集合写真

— 忘れない。忘れてはいけない —

震災コーナー



◎ 3・11と私



宮古地区電友会 八木 善政

その日私は、車で帰宅途中に国道上で大きな揺れに見舞われました。自宅に到着した時は、津波襲来の直前で避難していない家族を車に乗せ、急ぎ高台の小学校に避難しました。小学校は、下校時でしたが教職員の賢明な判断で全校生徒を校庭で待機させていました。

当時の私は、山田町織笠地区コミュニティ800世帯の副会長（防災担当役員を兼務）をしていましたが、自宅を含めて400世帯の住居が一軒残らず津波に流され、壊滅状態となりました。地区の防災組織のルールとしては、①家族の避難②避難には車の使用③地域点検の順と決めてありました。

その後、地区コミュニティ会長として震災

復興に取り組みましたので紹介いたします。

・震災直後にとった行動は、次の通りでした。

1、午後4時頃から小学校の教室で避難者受け入れ準備

2、避難所の環境整備（回収段ボール等利用出来るものは全て利用し、助かった）

3、暖房・照明（ローソク等）・トイレ

（幸いプールの水あり）

4、食料・飲料水の確保（近くの井戸水）

5、要介護者の支援（看護師、薬剤師がいた）

6、避難所名簿の作成（教職員が対応し、後に自分の名前を記載忘れし、名前がないと友人から泣かれた）

・避難所での生活を約6ヶ月続けた後、地域復興の取り組みを次の通り行いました。

1、壊滅的被害を受けた「カキ」「ホタテ」養殖業復興に向けた組合の立上げも後継者難で業者数11と4分の1に激減

2、地域事業者組合を復興庁と1年強折衝



嵩上げ完了後



震災直後

後、承認を得て立上げた

3、地域コミュニティ事業の再開（①犠牲者供養②夢明かり③歌謡ショウ）

4、地域住宅整備等の完了に伴う地域コミュニティの再編（平成29年度）

この7年間、震災復興に拘わった者としての信条は「前を向いて歩く」を常に頭に置いて、種々の事柄に当たることでした。

震災復興を振り返る

と、全国及び全世界から寄せられた数多くの支援が今日の被災地復興の姿だと思っており皆様から頂いた温かい声援に対し心より感謝しております。



地域復興の取り組みの一つ

◎災害からの教訓・「想定外」



五ッ橋クラブ 古澤 孝

2011年3月11日東日本大震災から早いもので7年半が過ぎ、津波被災地ではようやく復興の姿が見えるようになってきています。しかし、現実的にはあと数年はかかるよう

です。被害の実態を未曾有の災害、想定外などで表現していますが、近年、地震・豪雨・土砂災害など過去最大とか観測史上初めてとか今までにないような大規模な災害が発生しています。

私は南三陸町出身で、昭和35年チリ地震津波を小学生の時に経験しました。今回の震災による津波の想定は、当時のチリ地震津波をイメージしていましたが、とんでもない！想像を遥かに超え、6日後に南三陸町に入ったとたん「廃墟の街」が目飛び込み「絶句」状態でした。実家の建物は基礎だけ残し跡形もなくなっていました。

今回の震災では親戚・友人等たくさんの方が犠牲になりました。叔母はすぐそばの高台に避難するため身支度をし、夫の身支度を待っていました。2人とも津波の犠牲に、別の親戚は海岸から離れていたため大丈夫と思い自宅に避難していたところ、濁流に流されました。また、知人も自宅の3階にいて家族全員が犠牲になるなど、これまで南三陸町の住民は、当時のチリ地震津波の経験から、今回の想定外の津波に即応できず「ここまで津波は来ないだろう」という自己判断が、多くの犠牲者を出した要因の一つだと思います。

津波避難の心得は「もっと高いところ」「もっと遠く」「避難したら戻らない」を鉄則に「ここまで波は来ないだろう」の「だろう」は危険を呼んでしまう。

災害対応の想定される心構えは誰しもが認識していると思いますが、これまでは「災害はいつ、どこで起きるか分からない」「災害は忘れたころにやってくる」と言われてきていますが、最近はいつでも、どこでも災害は起きる」更には「想定外」も加わってきています。

これから起きるであろう災害に、一人の犠牲者を出さないためにも、東日本大震災や最近の大規模災害の「想定外」を教訓に行動していきたいですね。

◎震災のその後、私を感じた復興状況



電電相馬クラブ 草野 拓也

・道路の復興

常磐自動車道は2015年に浪江IC（常磐富岡IC間の開通でいわき・岩沼間が全面開通した。相馬福島自動車専用道（45km）は一部が開通済み（27km）を含め2020

年度全面開通予定で山形方面へ行きやすくなり期待しています。

・観光

日本百景でもある県立公園松川浦を中心とした松川浦～磯部地区までの大洲松川線の再開通があり松川大橋（松川浦のベープリッチ）、鶴ノ崎灯台、太平洋と松川浦を眺める直線道路が堪能できます。食事処もおおいに賑わっているようです。

・海水浴場

震災前まで賑わっていた海水浴場の避難路が完備し、昨年の夏に原釜海水浴場が再開され大いに賑わったと報道されました。もう少し若かったら海水浴に行ってみたと思ったところでした。

・海釣り

海の沖釣りを震災前は月に1回予定で釣りに出かけメバル、アイナメ、カレイ、ヒラメなどの釣りを楽しんでいました。特にヒラメ釣りを覚え始めてこれからというときに震災、原発事故がありしばらくは船が出られませんでした。最近では釣り船が出ているとのこと、船にしばらくぶりに乗りたいと思うこの頃です。また、このところ松川浦大橋付近ではサケ釣りなのか岸壁から投げ釣りの人々がたくさん竿をだして賑わっていました。

・汚染物の運搬

相馬市近郊では見かけませんが原発事故で汚染された地域では、除染作業ででた汚染物を入れた大きな袋の集積所があります、集積所には膨大な数の汚染物の袋あり田畑をつぶしてとてつもない大きなシートで覆われています。そのような集積所の数はどのくらいあるかは分かりませんが多数あることは確かです。そこから別の集積所（処分場かな？）に運搬するトラックが連なつて運搬始めました。よってこれから何年かかるかどうか私どもには分かりませんが、徐々に集積所の数が減ってくるでしょう。

◎大きく変わった趣味



電電相馬クラブ 蓬田 昌幸

「私の趣味は釣りです。」いろいろなプロ

フィールに記入していた言葉です。幼い頃から父親に連れられて海釣りをし、アイナメやボラ、鰈など大釣りし意気揚々と帰宅、自慢したのが趣味としての釣りの始まりでした。電電公社へ入社後も、釣りに勤しみ、転勤による新たな地での海釣りや磯釣り、溪流釣りを

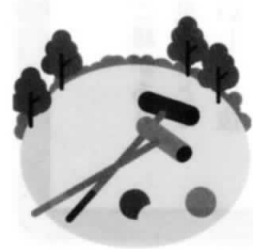
と楽しみが増え、転勤も苦にならず楽しみの一つとなりました。

しかし、その趣味も一変。東日本大震災で津波による被災された方の思いや、福島原発の放射能汚染により、海釣りや溪流釣りに足を踏み出すことが出来なくなりました。平成23年以降、竿に一度も触れることもせず、物置の片隅に置かれたままになっています。

退職後、悶々とした日々を過ごすなか、家庭菜園で紛らわしていました。ある時、市の広報誌に、地域交流のパークゴルフ教室が記載されており、興味津々登録、毎週地域の諸先輩方とプレーすることで楽しみを覚え、今では電友会を含め3つの同好会に参加、週3日のパークゴルフに興じています。

趣味の大きな変化の起点は東日本大震災でしたが、その変化によって地域の皆さんと交流を図ることができ、楽しみながら体力増進に心がけています。

「私の現在の趣味はパークゴルフです。」



賛助会員企業様コーナー

「賛助会員企業様コーナー」は賛助会員企業様の会員から、ご自分の会社の紹介や余暇の過ごし方等を寄稿していただくコーナーです。今回はエヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ(株)東北支店様、(株)ラインサービス様、(株)NTTファシリティーズ東北支店様です。



エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社
東北支店
黒木 崇之

生まれは宮崎県。「黒木」という姓は宮崎県で一番多い姓だそうです。

エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ(株)東北支店の黒木です。東北電友会の皆様には、平素より弊社事業にご理解とご支援を賜り、厚く御礼を申し上げます。

弊社は現在、世界40カ国/地域以上、110都市以上に拠点を設置しており、ネットワークサービス提供エリアは190カ国/地域を超えています。国内には大小14の拠点が、東北支店はその一つです。当支店は、東北6県のお客様への営業を担当し、クラウド、ネットワーク、セキュリティといったサービスを軸に営業活動を展開しております。

私は1991年にNTTに入社し、初期配属は通信ソフトウェア本部でした。4年半ほどISDNの顧客管理システムの開発を担当した後、法人営業本部の公共営業部に異動。以来、20年ほど中央省庁やその外郭団体への公共営業一筋でした。省庁再編前の建設省、日本道路公団の飛び込み営業担当からはじまり、郵政省、総務省、自治省、総務省、国土交通省等、様々な省庁の営業を担当しました。入札対応の難しさはあるものの、社会インフラと言えそうなICTを提案し、それが形になる営業活動は、大変やりがいのある仕事でした。生まれは宮崎県です。ちなみに、「黒木」という姓は宮崎県で一番多い姓だそうです。父の転勤に伴い、広島、兵庫、大阪、また中高時代は愛媛県松山市で過ごすなど、西日本で育ち、大学以降は東京や千葉に居り

ましたので、現職に就くまで東北にはご縁がありませんでした。東北に来てよかった、と思うことはたくさんありますが、中でも、お米のおいしさは抜群ですね。困ることは、気を抜くとすぐに太ることです。

週末は、最近はじめたゴルフの練習をしたり、近隣の公園を散歩したり、たまには温泉や観光名所を巡ってみました。一緒に仙台に来た妻と仲良く過ごしています。東北各県、行きたいところは数多くありますので、今後も計画的に訪れてみたいと思います。

弊社の事業ビジョンは「Transform. Transcend.」。「Transform」は変革、「Transcend」は超える、という意味です。お客様の期待や想像を「超える」価値を提供することは並大抵のことではありません。様々な方々のお力添えがあつて、はじめて実現できるところだと思います。皆様のお力添えをいただいて、東北の発展の一端を担えるよう、取り組んで参りますので、引き続きのご支援をよろしくお願い申し上げます。

本年はラグビーワールドカップ2019開催の年です。弊社ラグビーチーム「シャイニングアークス」もラグビーを盛り上げて参りますので応援のほど、よろしく願います。



株式会社ラインサービス

佐藤 信之

趣味は月いちのゴルフを
楽しんでいます！

株式会社ラインサービスの佐藤信之です。

NTTグループ並びにOBのみならずには日頃から弊社事業にご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

弊社は昭和34年に東北通信運輸(株)として電気通信資材の輸送を担う会社としてスタートし、平成11年に現在の(株)ラインサービスと社名を改め新たに携帯電話基地局建設を手掛ける電気通信工事事業を加え、運送業と合わせ2つの事業を中心に現在に至っております。

また、これら事業に加え電報配達事業、太陽光発電建設事業も実施しており、平成30年には創業60周年を迎えることができました。

平成23年の東日本大震災では、停電に伴い携帯電話基地局への電気の供給が停止したことから携帯電話の利用ができなくなりました。こうした中、基地局への発電機の輸送と燃料補給のため、24時間体制で業務を実施してまいりました。

また、この度の平成30年北海道胆振東部地震でもいち早く6台のトラックと1台のワゴン車で通信資材並びに発電機等を24時間体制で北海道まで輸送を行いました。

震災時等は、被災地での食糧調達や宿泊場所の確保が難しいため、非常食を持参し車中泊で任務を果たしてまいりました。

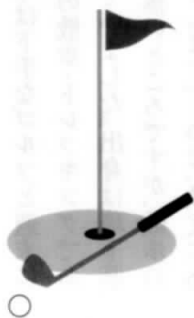
さて、運送業界を取り巻く環境は厳しい状況に

あり荷量は年々減少し、また、燃料費が高騰しても運賃は据え置きであります。一方、携帯電話基地局建設工事等も設備投資が増えないため、工事受注件数増に繋がらない等厳しいものがあります。

ラインサービスは運送業、電気通信工事業の二枚看板で業務を展開しており、プロドライバーも大勢いますので、震災時等の電源車の安全・迅速な移送でもお役立ち出来ると思います。また、資格・技術・やる気は沢山ありますので、何なりとご用命いただきたいと思います。

最後に私ごとですが、平成19年にテルウエル東北(株)に就職し、平成29年から(株)ラインサービスに勤めております。趣味は月いちのゴルフを楽しんでおり、NTT時代やテルウエル時代の仲間のみなさんから教えを請うておりますが、「好きこそ物の上手なれ」にはあてはまらず歯ぎしりをしております。

今後も小野寺社長のもと、NTTグループのみならずの信頼を深めてまいりますので、引き続き(株)ラインサービスへのご指導ご支援をよろしくお願いいたします。





株式会社NTTファシリティーズ
東北支店
木津川 直樹

出身は埼玉県。散歩のお勧めスポットは
秩父の芝桜の丘と日高市の曼珠沙華です。

NTTファシリティーズ東北支店の木津川直樹です。日頃から、NTTOBの皆様方、並びにNTTグループ各社には、弊社事業に対して、多大なるご理解とご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

弊社は、ご存じかと思いますが、電電公社時代の建築部と電力部門がNTTから平成4年に分社し昨年12月で26周年を迎えることができました。発足当時は、NTT土地・建物の工事設計・監理、維持管理や電力装置の点検・保守等と合わせ、電力総合業務と建築総合業務等、ほぼNTTからの受託業務が売上の大宗を占める会社でありました。

最近では、NTT業務で培った、建築・電力・エネルギーの各分野での技術力により、一般市場の拡大に取組み、地方自治体の設計業務や建物維持管理業務、民間企業の新築設計やデータセンターの構築業務、各種補助金制度を活用した復興業務、太陽光発電所の構築業務等により、着実に発展を遂げています。

今年は、持株会社が発表した新たなグループフォーメーションにおいて、①脱炭素、②ファシリティイマネジメント、③スマートビルディング、④データセンターといったソリューションを活用しつつNTT都市開発との連携による不動産開発のノウハウ等により、地域社会が目指す個性で活力ある街づくりに積極的に取り組む方針が示され、その実現に向けていく考えにあります。

さて、私事ですが、趣味は下手なゴルフと週末に妻と都内近郊・近県等での散歩・トレッキングであちらこちらを歩き回っていました。出身は埼玉県で、あまり観光の目玉が無いところですが、散歩のお勧めスポットをご紹介します。1つは、秩父にある羊山公園の芝桜の丘です。4月中旬が見頃で関東でも有数の規模となっています。もう1つは、日高市にある巾着田の曼珠沙華で、500万本の真紅の曼珠沙華が薄暗い雑木林の中に広がっている風景は幻想的な印象を与えます。見頃は9月中旬頃で、どちらも仙台からはアクセスしにくい場所ですが、機会がありましたら是非、一度御覧頂ければと思います。

最後に、繰り返しとなりますが、当社は電力と建物とエネルギーを融合させ、Smart & Safetyで持続可能な社会の実現に貢献し続けることを使命に、地域社会と共存しながら、お客様に選ばれ続けることを目指して参りたいと考えておりますので、電友会会員の皆様、NTTグループの皆様方におかれましては、今後とも変わらぬご指導を賜りますよう、どうぞよろしくお願い致します。



東北地方本部だより

東北地方本部事務局

◎支部長・事務局長会議の開催

30年7月19日、NTT五橋ビルにおいて開催。ボランティア活動賞、地方本部長賞の推薦、ボランティア物品支援状況、会報83号の発行等について審議、決定しました。

◎第5回女性の会への参加



グループディスカッション模様



支部長・事務局長会議

30年9月25日～26日、

本部主催で名古屋市ロココートホテルにおいて開催。東北からは、平井妙子さん（地方本部）、星久美子さん（あさか会副会長）が参加。基調講演や各地域での取り組み状況の交換、活動活性化に向けたグループディスカッション等活発な意見交換を行ってきました。

（※関連記事20ページ参照）

◎震災復興支援ボランティア活動への参加

（1）東松島市海岸防災林再生活動への参加
平成30年6月23日、NTT東日本宮城事業部主催で「NTT東日本みやぎの森」プロジェクトとして3年前から実施している同市矢本地区、浜市地区の植樹後の成長管理（下草刈）



全国の仲間と懇親会

活動へ参加。奥野本部長始め五ッ橋クラブ（10名）、石巻電友会（3名）の会員計13名が梅雨の晴れ間の下草刈に奮闘しました。



東松島市海岸防災林再生活動へ参加の皆さん

（2）気仙沼大島震災復興支援活動への参加

また、平成30年7月21日、NTT（持株）CSR推進室、NTTファシリティーズエンジニアリング主催の「緑の真珠海岸林再生プロジェクト活動」に、奥野本部長、小野寺前本部長始め宮城支部13名（五ッ橋9名、気仙沼4名）、岩手支部（一関4名）が参加。6年前に植樹した苗木の成長管理として今回も下草刈を行ってしました。両事業への参加の皆様のご協力ありがとうございました。

電友会では引き続き

「チームNTT」

として震災復興支援のボランティア活動に積極的に参加してまいります。会員の皆様の更なるご参加をお願いします。



さあ！みんなで下草刈をするぞー

◎電友会ボランティア活動賞受賞

30年11月21日、本部主催の表彰式が「KKRホテル東京」において行われました。

東北の受賞者は次の方々です。

・第28回ボランティア活動賞

菅野 光宣さん（宮城支部）

「長年に亘りソフトボール審判員として社会貢献した功績」

電電公社在職中の昭和57年からソフトボール審判員としてボランティア活動を開始。現在に至るまで審判団の中心として青少年の育成や宮城県とソフトボール協会の発展に取り組んできました。こうした功績により平成27年には日本ソフトボール協会より「終身審判員」の称号を授与されるなどスポーツを通じた社会貢献活動が評価されました。

岩城 恭治さん（岩手支部）

「NPO法人による社会貢献活動と震災被災者への支援活動の継続実施」の功績

平成5年NTT退職後、大船渡電友会会長として長年会の運営に携わる傍ら平成18年「NPO法人夢ネット大船渡」を立上げ理事長として地域づくりフォーラムの開催等地域の活性化に取り組んできました。東日本大震災後は「気仙市民復興連絡会」を結成し支援物資の運搬等先頭に立って行動してきました。その後も各種イベント、被災者支援情報誌の発行等多方面に亘り活動が評価されました。

東海林 憲男さん（山形支部）

「観光ボランティアガイド活動で地域の活性化の一翼を担う」



ボランティア活動賞受賞の皆さん
前列（左から）菅野さん、東海林ご夫妻
後列（左から）奥野本部長、岩城ご夫妻、高石事務局長

平成11年から上山市観光ボランティアガイド協会の役員として活動に参加。現在では上山城案内は年間4千名以上、齋藤茂吉記念館等市内旧跡めぐりも1千名を越えるなど上山の観光促進に大きな貢献をしています。現在も現役ガイドとして活動し地域振興に大きく尽力されています。

◎叙勲のご紹介

謹んでお祝い申し上げますと共に、益々のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

高齢者叙勲

瑞宝双光章 岩手支部 堀川 壽雄様
瑞宝双光章 山形支部 石川 俊夫様

（平成30年5月～30年11月まで）

◆お知らせ

◎2020東京オリンピック・パラリンピック支援施策へのご協力を！

東京2020大会入賞メダルの作成協力として（株）NTTドコモが共催する「都市鉱山からつくるみんなのメダルプロジェクト」に電友会も協力しています。使用済みケータイ・スマホをお近くのドコモショップへお持ちください。地方本部事務局へ送っていただいても結構です。